

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470200946
法人名	社会福祉法人 青山里会
事業所名	小山田グループホーム
所在地 (電話番号)	四日市市山田町5516-1 (電話) 059-328-2177
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 6 月 3 日(火)

【情報提供票より】 (H20年5月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	13人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円程度	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	9 名	要介護2	6 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	80.3 歳	最低	57 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小山田記念温泉病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の南西部に位置し、田園に囲まれた静かで広大な敷地に、医療施設、介護福祉施設、福祉専門学校等が併設している一角にあるオレンジ色の屋根の建物が事業所である。玄関前には花壇があり和やかである。経験豊かな管理者をはじめ職員は笑顔で、明るく職員間の協調性もよく、ケアにおいても、利用者一人ひとりの思いをくみとる支援をしており、利用者、職員共にゆったりと過している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの理念、理念の共有、地域とのつきあい等については日常の話し合いのなかで意思統一を図っており、ケアの質の向上を目指して徐々に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者とユニットリーダーで検討しまとめた。まとめた結果は、職員に示し話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は第1回目を去る2月に開催し、概ね3ヶ月に1回開催しているが、参加メンバーに地域代表者が参加されていない。運営推進会議は事業所の理解と支援を得る機会であり、法人会の協力を得て地域代表者を選任されることを期待する。
重点項目④	家族に意見、苦情、不安への対処方法・運営への反映(関連項目:外部7・8)
	ご意見箱は設置しているが、家族からの意見、苦情等の投書はなかった。家族が来訪時に口頭で言われたことについては検討していた。退所の条件や外部の苦情相談窓口は重要事項説明書に明記している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	事業所は広大な医療、介護福祉施設等のある環境であり、日常的に地域住民との交流は難しいが、地域老人会のボランティアが他の施設を訪ねた時に、当事業所に立ち寄り、花壇の手入れ、草取り、野菜の差し入れ等がある。また、事業所から少し離れた所に法人の美術館があり、利用者も出かけ地域住民との交流の機会を得ている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の行事等に参加しながら生き生きと自信を持って安心、安全な生活ができるよう支援する(環境づくり)を基本理念としている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は打ち合わせの時に、気づいた事や利用者の意向に沿っているかを話し合い、日々取り組んでいる。		
管理者、職員					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地環境から法人会(母体である青山里会)が、自治会に加入をしているも、日常的な交流は難しい。地域の行事(祭り等)には参加している。地域の老人会のボランティアが立ちよ草とり等で交流する事がある。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者、ユニットリーダーで話し合いまとめた後、職員に示し話し合った。外部評価の結果をもとに事業所の現状を話し合い、徐々に改善に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は去る2月に第1回目を開催し、概ね3ヶ月に1回は開催しているが、参加メンバーに地域代表者が参加されていない。	○	運営推進会議は定期的開催し、事業所の取組み状況を説明し、事業所の理解と支援を得る機会となっているが、地域代表者の出席がないことについては、法人会(母体である青山里会)の協力を得て、地域代表者を選任されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市委託の包括支援センターが法人施設内にあり、常に連絡、相談をし連携がとれている。また管理者が介護保険認定審査委員でもあり、市との連絡もよくされている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多いこともあり、その時に利用者の日常の様子を話しているため、「グループホームたより」は発行していない。金銭管理はしていないが、利用者や家族との了解で小遣い銭を持っている利用者があり、見守りはしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置しているが、家族からの意見、苦情、不満等の投書はない。家族の来訪時の意見等は口頭で言われたことは検討していた。退所の条件や外部の苦情相談窓口等は重要事項説明書に明記している。	○	過去に入院等により利用出来る状態ではなくなった時、退所の条件が契約書と異り、口頭で了解を得ていた。利用契約書には退所の条件を詳細に記載されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、法人施設内の異動であり、利用者への影響を配慮して行事で交流ができるように努めている。	○	職員の異動については、利用者、家族に対してユニット毎に職員の顔写真を掲示する等、方法を考慮されることが望まれる。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の地域グループホーム協議会、全国グループホーム協議会開催の研修に各1名は出席している。研修後は報告書を作成し、打ち合わせ会等で伝達をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域外法人のグループホームに研修、業務の応援等で相互訪問等の交流を行っている。年2回は利用者と一緒に同業者の行事にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人施設からの利用者には職員が施設に出向き面接をしている。利用者、家族の体験入所(3日)をふまえて事業所の雰囲気に馴染ってもらうように支援している。		
(
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と、日常の食事の準備、後片付け、おやつ作り等と一緒にしながら支え合う関係になっている。		
CD					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを引き出すように努めている。帰宅願望の強い利用者の希望をかなえるために、家族と話し合い帰宅させた事もあった。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで利用者、家族からの意向を把握し、ミーティングを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後1ヶ月、3ヶ月毎に出来ること、出来ないことを確認し介護計画を見直している。また、利用者の状態に応じて随時話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
で					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人経営の美術館に出かけたり、デイサービスの音楽療法、アニマルセラピー等に参加している。家族の都合がつかない時は、医療機関への受診も支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の併設医療機関が、かかりつけ医となっている利用者が殆どのため、受診しやすく連携がよくとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に終末期のケアの経験があり、今後も利用者、家族、かかりつけ医、職員全員で、方針等について検討している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあった居室へのノック、入浴、排泄等への言葉かけに配慮している。書類等の個人情報の取り扱いも周知され、利用者、家族の同意を得ていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調、気持ちを尊重し、散歩、買い物、食事の後片付け、ごみ出し等、利用者の意向に添うよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎で食事の献立が異なることもある。食品の買い物、調理、配膳、後片付け等を利用者と職員がかかわって一緒に行い、楽しんで食事をしてきた。全員食欲も旺盛だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴ができるようになっていた。入浴を好まない利用者には時に家族と一緒に入ってもらう等配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること好きな事を見出し、食事の調理、後片付け、掃除、洗濯物干し、ごみ出し等を行うことが楽しみでもあり、役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、利用者の体調に応じて、広大な敷地内の散歩、他の施設に入所の家族を見舞う等、利用者の意向に合わせた支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。夜間は施錠している。居室は利用者の意向にそっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、避難訓練は年1回実施している。平成20年は来9月に実施予定である。緊急連絡網は整備され、隣接施設の緊急時の応援体制も出来ている。夜間は夜勤者1名、宿直者1名の職員を配置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり開始ア					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は事業所で賄い調理もしている。ユニットで献立が異なることもある。利用者各自の食事摂取量、水分摂取量の見守りをしており、食事摂取量、水分摂取量の少ない利用者には配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の外庭にテーブルと椅子が置かれ、季節の草花が咲いていた。居間にはソファがあり、気のあった利用者同士が、話し合う等居心地よく過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、エアコン、収納押入れ、洗面台、カーテン等が設置されている。利用者の好みでテーブル、衣装箱等が持ち込まれ、利用者それぞれが落ち着いて過せるようになっていた。		